

教育・研究業績書

講座名 薬理学		
＜教員の紹介＞		
教授 上川 雄一郎 准教授 内田 幸介 准教授 児嶋 修一 助 教 堂 前 真理子 助 教 林 啓太郎		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
1. 授業シラバスの充実	2004年10月～現在	担当授業すべてにおいて、授業概要だけでなく、重要図表、必読文献リスト、重要キーワード、必須医薬品リスト、演習問題等を事前に提示し、学生の予習・復習意欲を高めた。
2. 受講カードによる授業参加度の評価	2004年10月～現在	各授業時間毎に、重要ポイント2つ、授業への疑問・質問・注文を3つ書かせる受講カードを配布・回収することにより授業参加度を評価し、総合評価に組み入れることによって、学生の講義参加意欲を高めた。
3. 定期試験問題の模範解答の公開	2004年10月～現在	記述式の定期試験問題の模範解答を毎年公開し、学生の試験勉強改善にフィードバックさせている。
4. 実習における口頭試問の充実	2004年10月～現在	実習では、得られたデータを元にした口頭試問を全学生に出題し、その場で答えさせることによって、授業で習ったことを実践に応用する方法を会得させている。

<b>② 作成した教科書、教材、参考書</b>		
1. 平成 16 年度 薬理学サブノート	2004 年 10 月	授業 1 コマ毎に授業概要、重要図表、必読文献、キーワード、演習問題、必須医薬品リストを作成し、全授業時間分（約 400 ページ）を製本印刷したものを毎年の授業開始前に無料配布し、学生の予習・復習意欲を高めた。
2. 平成 17 年度 薬理学サブノート	2005 年 10 月	
3. 平成 18 年度 薬理学サブノート	2006 年 10 月	
4. 平成 19 年度 薬理学サブノート	2007 年 10 月	
5. 平成 20 年度 薬理学サブノート	2008 年 10 月	
<b>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</b>		
1. 第 36 回日本医学教育学会一般発表	2004 年 7 月	本学 1 学年・2 学年・3 学年を対象とした PBL テュートリアル教育の学生評価法について検討、解析した。
2. 第 32 回獨協医学会一般発表	2004 年 12 月	本学 PBL テュートリアル教育における学生評価法とその問題点について解析した。
3. 第 33 回獨協医学会一般発表	2005 年 12 月	PBL テュートリアル教育学生評価の 3 年間（1 学年・2 学年・3 学年）の推移について分析した。
4. 第 38 回日本医学教育学会一般発表	2006 年 7 月	獨協医科大学における A0 入試導入 3 年間の実績を、入学後の成績との相関性の面から解析した。
<u>5. 第 39 回日本医学教育学会一般発表</u>	<u>2007 年 7 月</u>	<u>医学準備教育として、医療関連新聞記事を 100 文字抄録にまとめさせる課題を与え、第 1 学年の成績との相関性を解析した。</u>
<u>6. 第 40 回日本医学教育学会一般発表</u>	<u>2008 年 7 月</u>	<u>受講カードを用いて授業参加度を評価し、定期試験成績との相関性を解析した。</u>

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
薬理学	教授	上川 雄一郎	大学院の研究指導担当資格 有
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1968年4月～現在	日本薬理学会評議員		
1974年4月～現在	日本平滑筋学会評議員		
1975年9月～現在	日本アレルギー学会評議員・倫理委員		
1985年3月～現在	日本気道過敏性研究会評議員		
1998年4月～現在	日本医学英語教育学会員		
2001年9月～現在	日本医学教育学会員		
2002年9月～現在	日本呼吸器学会員		
2003年4月～現在	日本臨床薬理学会員		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
【学位論文】			
【著 書】			
欧文			
1. Adachi M, Ago Y, Akiyama K, Baba M, Egashira Y, Fujimura M, Fukuda T, Furusho K, Iikura Y, Inoue H, Ito K, Iwamoto I, Kabe J, Kamikawa Y, <u>Kamikawa Y</u> , Kihara N, Kitamura S, Kudo K, Mano K, Matsui T, Mikawa H, Miyagi S, Miyamoto T, Morita Y, Nagasaka Y, Nakagawa Y, Nakajima S, Nakazawa T, Nishima S, Ohta K, Okubo T, Sakakibara H, Sano Y, Shinomiya K, Takagi K, Takahashi K, Tamura G, Tomioka H, Toyoshima K, Tsukioka K, Ueda N, Yamakido M: 「Asthma Prevention and Management Guidelines」 Makino S (ed), Karger, Int Arch Allergy Immunol 136(Supplement 1):1-49, 2005.			
和文			
1. <u>上川雄一郎</u> : 「プロフェッショナル英和辞書 スペッド イオス」、堀内克明・布山喜章他編, 小学館、2004.			
2. <u>上川雄一郎</u> : 呼吸器系の薬理. 「医系薬理学 改訂2版」遠藤仁他編, 中外医学社、340-355, 2005.			
3. 児嶋修一, <u>上川雄一郎</u> : カルシトニン遺伝子関連ペプチド受容体拮抗薬の展望. 「臨床分子内分泌学 3」日本臨床社、263-266, 2005.			
4. <u>上川雄一郎</u> : アレルギー性鼻炎治療薬の副作用・薬剤相互作用. 「鼻アレルギー診療ガイドライン ー通年性鼻炎と花粉症ー 2005年版 (改訂第5版)」鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会, ライフ・サイエンス、p43-47, 2005.			
5. 大野泰雄, <u>上川雄一郎</u> , 杉山雄一, 山添康編著 「摘出ヒト組織・細胞を用いた非臨床研究」 LIFE-SCIENCE INFORMATION CENTER、p64-107, 2005.			
6. <u>上川雄一郎</u> : アレルギー性鼻炎治療薬の副作用・薬剤相互作用. 「鼻アレルギー診療ガイドライン ー通年性鼻炎と花粉症ー 2009年版 (改訂第6版)」鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会, ライフ・サイエンス、p47-53, 2008.			

## 【原 著】

### 欧文

1. Kojima S, Ueda S, Ikeda M, Kamikawa Y: Calcitonin gene-related peptide facilitates serotonin release from guinea-pig colonic mucosa via myenteric neurons and tachykinin NK<sub>2</sub>/NK<sub>3</sub> receptors. *Br J Pharmacol* 141: 385-390, 2004.
2. Kamikawa Y, Shibukawa A, Uchida K, Sasaki K, Sunagawa M, Ohno Y: Preservative solution for freeze-storage of surgically excised human colon to enable study of smooth muscle function in vitro. *J Smooth Muscle Res* 40: 177-182, 2004.
3. Kamikawa Y, Takayama N: In vitro comparison of the intrinsic activity of functional antagonism between  $\beta$ -agonists and spasmogens in the guinea-pig tracheal muscle. *Allergol Int* 54: 99-106, 2005.
4. Kojima S, Ikeda M, Kamikawa Y: Loperamide inhibits tachykinin NK<sub>3</sub>-receptor-triggered serotonin release without affecting NK<sub>2</sub>-receptor-triggered serotonin release from guinea pig colonic mucosa. *J Pharmacol Sci* 98: 175-180, 2005.
5. Kojima S, Uchida K, Sasaki K, Sunagawa M, Ohno Y, Kamikawa Y: The suppressant effect of GEA3162 on spontaneous serotonin release from human colonic mucosa in vitro. *Eur J Pharmacol* 550: 162-165, 2006.
6. Wang X, Hattori Y, Satoh H, Iwata C, Banba N, Monden T, Uchida K, Kamikawa Y, Kasai K: Tetrahydrobiopterin prevents endothelial dysfunction and restores adiponectin in rats. *Eur J Pharmacol* 555: 48-53, 2007.
7. Nakai K, Tanaka H, Hanada K, Ogata H, Suzuki F, Kumada H, Miyajima A, Ishida S, Sunouchi M, Habano W, Kamikawa Y, Kubota K, Kita J, Ozawa S, Ohno Y: Decreased expression of cytochromes P450 1A2, 2E1, and 3A4 and drug transporters Na<sup>+</sup>-taurocholate-cotransporting polypeptide, organic cation transporter 1, and organic anion-transporting peptide-C correlates with the progression of liver fibrosis in chronic hepatitis C patients. *Drug Metab Dispos* 36: 1789-1793, 2008.
8. Kojima S, Ikeda M, Kamikawa Y: Further investigation into the mechanism of tachykinin NK<sub>2</sub> receptor-triggered serotonin release from guinea-pig proximal colon. *J Pharmacol Sci* 110: 122-126, 2009.

### 和文

1. 上川雄一郎, 内田幸介, 高山尚美:  $\beta_2$ 刺激薬の気管支拡張作用における機能的パーシャルアゴニスト活性の評価. *呼吸* 23: S49, 2004.
2. 児嶋修一, 池田雅志, 上川雄一郎: 過敏性腸症候群 (IBS) 治療標的としてのタキキニンNK<sub>2</sub>受容体: 大腸粘膜からのセロトニン放出制御機構におけるタキキニン受容体の役割. *日薬理誌* 124: 87-88, 2004.
3. 簾内桃子, 酒見和枝, 窪田敬一, 北順二, 上川雄一郎, 内田幸介, 三浦慎一, 繁原英治, 藤岡弘之, 大野泰雄: 日本人由来の手術切除肝組織提供体制構築の試み. *国立医薬品食品衛生研究所報告集* 123: 68-72, 2005.

## 【症例報告】

## 【総 説】

### 欧文

1. Uchida K, Kamikawa Y: Muscularis mucosae-the forgotten sibling. *J Smooth Muscle Res* 43: 157-177, 2007.

### 和文

1. 上川雄一郎：テオフィリン／メチルキサンチンの副作用と薬物相互作用。 アレルギー・免疫 11: 68-72, 2004.
2. 上川雄一郎：フルアゴニストとパーシャルアゴニスト。 アレルギー・免疫 12: 18-23, 2005.
3. 牧野荘平, 上川雄一郎：DSCGの薬理作用。 アレルギー・免疫 12: 1132-1136, 2005.
4. 上川雄一郎：アレルギー性鼻炎治療薬の副作用・薬剤相互作用 —他疾患治療薬との関係—。 Progress in Medicine 25: 2733-2739, 2005.
5. 上川雄一郎：Q6. アレルギー性鼻炎治療薬・抗ヒスタミン薬の相互作用について教えてください。 臨床のあゆみ 66: 18, 2005.
6. 児嶋修一, 上川雄一郎：タキキニン受容体 —胃・腸管領域における基礎と臨床—。 日薬理誌 128: 108-109, 2006.
7. 上川雄一郎：最新版ガイドラインの薬物相互作用とは？ 最新版鼻アレルギーのガイドラインの、薬物相互作用について教えてください。 Q&Aでわかるアレルギー疾患 2: 433-434, 2006.
8. 上川雄一郎：薬物代謝と薬物相互作用。 日耳鼻 日本耳鼻咽喉科学会会報 112: 1-11, 2009.
9. 上川雄一郎：鼻アレルギー治療薬の副作用・薬剤相互作用。 Progress in Medicine 29: 319-325, 2009.
10. 上川雄一郎：アレルギー性鼻炎用薬剤の副作用について教えてください。 JOHNS 25: 400-402, 2009.

#### 【その他】

##### 和文

1. 上川雄一郎：ステロイド外用剤の薬効分類と選択時の留意点 1. おもなステロイド外用剤の薬効分類。 アレルギー ミニレター 10: 7, 2004.
2. 上川雄一郎：ステロイド外用剤の薬効分類と選択時の留意点 2. ステロイド外用剤選択時の留意点。 アレルギー ミニレター 11: 6, 2004.
3. 上川雄一郎：ステロイド外用剤の塗り方。 アレルギー ミニレター 12: 6, 2004.
4. 上川雄一郎：ステロイド外用剤による接触皮膚炎。 アレルギー ミニレター 13: 6, 2004.
5. 上川雄一郎：喘息ガイドライン研究会 「喘息診断基準調査」結果報告会。 診療と新薬 42: 249-256, 2005.
6. 上川雄一郎：ステロイド外用剤と保湿剤混合の留意点 (1)。 アレルギー ミニレター 14: 6, 2005.
7. 上川雄一郎：ステロイド外用剤と保湿剤混合の留意点 (2)。 アレルギー ミニレター 5: 7-8, 2005.
8. 大野泰雄, 上川雄一郎, 窪田敬一, 山添康, 二宮真一, 嶋田薫, 山田泰弘, 馬場隆彦, 小室勢津子, 中村明生, 曾川裕介, 岡崎治, 三浦慎一, 加藤基浩, 森田繁道, 神山佳輝：外科手術摘出ヒト組織を用いたオーダーメイド医療の研究と遺伝多型を考慮したヒト肝細胞の代謝研究への応用に関する研究。 平成 16 年度 創薬等ヒューマンサイエンス研究 重点研究報告書, 102-110, 2005.
9. 大野泰雄, 上川雄一郎, 窪田敬一, 山添康, 二宮真一, 嶋田薫, 山田泰弘, 馬場隆彦, 小室勢津子, 中村明生, 曾川裕介, 岡崎治, 三浦慎一, 加藤基浩, 森田繁道, 神山佳輝：外科手術摘出ヒト組織を用いたオーダーメイド医療の研究と遺伝多型を考慮したヒト肝細胞の代謝研究への応用に関する研究。 平成 17 年度 創薬等ヒューマンサイエンス研究 重点研究報告書重点研究報告書, 617-627, 2006.
10. 大野泰雄, 上川雄一郎, 窪田敬一, 山添康, 二宮真一, 嶋田薫, 山田泰弘, 馬場隆彦, 小室勢津子, 中村明生, 曾川裕介, 岡崎治, 三浦慎一, 加藤基浩, 森田繁道, 神山佳輝：外科手術摘出ヒト組織を用いたオーダーメイド医療の研究と遺伝多型を考慮したヒト肝細胞の代謝研究への応用に関する研究。 平成 18 年度 政策創薬総合研究 重点研究報告書(Ⅱ), 1054-1059, 2007.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
薬理学	准教授	内田 幸介	大学院の研究指導担当資格 有
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1981年1月～現在	日本薬理学会員		
1985年4月～現在	日本麻酔学会員		
1990年4月～現在	日本平滑筋学会員		
2000年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
2000年10月～現在	日本臨床薬理学会員		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. 上川雄一郎, 内田幸介, 渋川朝子, 児嶋修一: 第3章 薬理研究への利用, 第1節 平滑筋の調整・培養・保存, 第2節 利用の実際. 「摘出ヒト組織・細胞を用いた非臨床研究」 LIFE- SCIENCE INFORMATION CENTER、p89-107, 2005.			
【原 著】			
欧文			
1. Kamikawa Y, Shibukawa A, <u>Uchida K</u> , Sasaki K, Sunagawa M, Ohno Y: Preservative solution for freeze-storage of surgically excised human colon to enable study of smooth muscle function <i>in vitro</i> . J Smooth Muscle Res 40: 177-182, 2004.			
2. Kase H, Hashikabe Y, <u>Uchida K</u> , Nakanishi N, Hattori Y: Supplementation with tetrahydrobiopterin prevents the cardiovascular effects of angiotensin II-induced oxidative and nitrosative stress. J Hypertension 23: 1375-1382, 2005.			
3. Takayama N, <u>Uchida K</u> : Epithelium-dependent and -independent inhibitory effects of sivelestat, a neutrophil elastase inhibitor, on substance P-induced contraction of airway smooth muscle in lipopolysaccharide-treated guinea-pigs. J Smooth Muscle Res 41: 257-270, 2005.			
4. Kojima S, <u>Uchida K</u> , Sasaki K, Sunagawa M, Ohno Y, Kamikawa Y: The suppressant effect of GEA3162 on spontaneous serotonin release from human colonic mucosa in vitro. Eur J Pharmacol 550: 162-165, 2006.			
5. Hashikabe Y, Suzuki K, Jojima T, <u>Uchida K</u> , Hattori Y: Aldosterone impairs vascular endothelial cell function. J Cardiovasc Pharmacol 47: 609-613, 2006.			
6. Iwata C, Wang X, <u>Uchida K</u> , Nakanishi N, Hattori Y: Buthionine sulfoximine causes endothelium dependent hyper-relaxation and hypoadiponectinemia. Life Sci 80: 873-878, 2007.			
7. Wang X, Hattori Y, Satoh H, Iwata C, Banba N, Monden T, <u>Uchida K</u> , Kamikawa Y, Kasai K: Tetrahydrobiopterin prevents endothelial dysfunction and restores adiponectin in rats. Eur J Pharmacol 555: 48-53, 2007.			

8. Tsurumi T, Uchida K: Involvement of K<sup>+</sup> channels and Na<sup>+</sup>, K<sup>+</sup>-ATPase in relaxant actions of selective phosphodiesterase 3 inhibitors on airway and vascular smooth muscles isolated from guinea-pigs. Dokkyo J Med Sci 34: 7-20, 2007.
9. Suzuki K, Uchida K, Nakanishi N, Hattori Y: Cilostazol activates AMP-activated protein kinase and restores endothelial function in diabetes. Am J Hypertension 21: 451-457, 2008.
10. Jojima T, Suzuki K, Hiramata N, Uchida K, Hattori Y: Glimepiride upregulates eNOS activity and inhibits cytokine-induced NF- $\kappa$ B activation through a phosphoinositide 3-kinase-Akt-dependent pathway. Diabetes Obesity and Metabolism 11: 143-149, 2009.

#### 和文

1. 上川雄一郎, 内田幸介, 高山尚美:  $\beta_2$ 刺激薬の気管支拡張作用における機能的パーシャルアゴニスト活性の評価. 呼吸 23: S49, 2004.
2. 簾内桃子, 酒見和枝, 窪田敬一, 北順二, 上川雄一郎, 内田幸介, 三浦慎一, 繁原英治, 藤岡弘之, 大野泰雄: 日本人由来の手術切除肝組織提供体制構築の試み. 国立医薬品食品衛生研究所報告集 123: 68-72, 2005.

#### 【症例報告】

#### 【総 説】

#### 欧文

1. Uchida K, Kamikawa Y: Muscularis mucosae - the forgotten sibling. J Smooth Muscle Res 43: 157-177, 2007.

#### 【そ の 他】

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
薬理学	准教授	児嶋 修一	大学院の研究指導担当資格 有
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1984年4月～現在	日本薬理学会評議員		
1985年4月～現在	日本平滑筋学会員		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
<b>【学位論文】</b>			
<b>【著 書】</b>			
和文			
1. <u>児嶋修一</u> , 上川雄一郎: カルトニン遺伝子関連ペプチド受容体拮抗薬の展望. 「臨床分子内分泌学 3」日本臨床社、263-266, 2005.			
2. 上川雄一郎, 内田幸介, 渋谷朝子, <u>児嶋修一</u> : 第3章 薬理研究への利用、第1節 平滑筋の調整・培養・保存、第2節 利用の実際. 「摘出ヒト組織・細胞を用いた非臨床研究」 LIFE-SCIENCE INFORMATION CENTER、p89-104, 2005.			
<b>【原 著】</b>			
欧文			
1. <u>Kojima S</u> , Ueda S, Ikeda M, Kamikawa Y: Calcitonin gene-related peptide facilitates serotonin release from guinea-pig colonic mucosa via myenteric neurons and tachykinin NK <sub>2</sub> /NK <sub>3</sub> receptors. Br J Pharmacol 141: 385-390, 2004.			
2. <u>Kojima S</u> , Ikeda M, Kamikawa Y: Loperamide inhibits tachykinin NK <sub>3</sub> -receptor-triggered serotonin release without affecting NK <sub>2</sub> -receptor-triggered serotonin release from guinea pig colonic mucosa. J Pharmacol Sci 98: 175-180, 2005.			
3. <u>Kojima S</u> , Uchida K, Sasaki K, Sunagawa M, Ohno Y, Kamikawa Y: The suppressant effect of GEA3162 on spontaneous serotonin release from human colonic mucosa in vitro. Eur J Pharmacol 550: 162-165, 2006.			
4. <u>Kojima S</u> , Ikeda M, Kamikawa Y: Further investigation into the mechanism of tachykinin NK <sub>2</sub> receptor-triggered serotonin release from guinea-pig proximal colon. J Pharmacol Sci 110: 122-126, 2009.			
和文			
1. <u>児嶋修一</u> , 池田雅志, 上川雄一郎: 過敏性腸症候群 (IBS) 治療標的としてのタキキニンNK <sub>2</sub> 受容体: 大腸粘膜からのセロトニン放出制御機構におけるタキキニン受容体の役割. 日薬理誌 124: 87-88, 2004.			
<b>【症例報告】</b>			



【総 説】

和文

1. 児嶋修一, 上川雄一郎: タキキニン受容体 一胃・腸管領域における基礎と臨床一. 日薬理誌 128: 108-109, 2006.

【そ の 他】

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
薬理学	助教	堂前 真理子	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1996年4月～現在	日本アレルギー学会員		
1997年4月～現在	日本薬理学会評議員		
2002年2月～現在	日本呼吸器学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
【症例報告】			
【総 説】			
和文			
1. <u>堂前真理子</u> ：炎症性サイトカインによるロイコトリエンC <sub>4</sub> の合成調節. 臨床免疫・アレルギー科 49: 109-115, 2008.			
【そ の 他】			

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
薬理学	助教	林 啓太郎	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2008年1月～現在	日本アレルギー学会員		
2008年1月～現在	日本薬理学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
欧文			
1. Kohu K, Sato T, Ohno S, <u>Hayashi K</u> , Uchino R, Abe N, Nakazato M, Yoshida N, Kikuchi T, Iwakura Y, Inoue Y, Watanabe T, Habu S, Satake M: Overexpression of the Runx3 transcription factor increases the proportion of mature thymocytes of the CD8 single-positive lineage. J Immunol 174: 2627-2636, 2005.			
2. Abe N, Kohu K, Ohmori H, <u>Hayashi K</u> , Watanabe T, Hozumi K, Sato T, Habu S, Satake M: Reduction of Runx1 transcription factor activity up-regulates Fas and Bim expression and enhances the apoptotic sensitivity of double positive thymocytes. J Immunol 175: 4475-4482, 2005.			
3. Hundt M, Tabata H, Jeon MS, <u>Hayashi K</u> , Tanaka Y, Krishna R, De Giorgio L, Liu YC, Fukata M, Altman A: Impaired activation and localization of LAT in anergic T cells as a consequence of a selective palmitoylation defect. Immunity 24:513-522, 2006.			
4. <u>Hayashi K</u> , Altman A: Filamin A is required for T Cell activation mediated by protein kinase C- $\theta$ . J Immunol 177: 1721-178, 2006.			
5. Melowic HR, Stahelin RV, Blatner NR, Tian W, <u>Hayashi K</u> , Altman A, Cho W: Mechanism of diacylglycerol-induced membrane targeting and activation of protein kinase C $\theta$ . J Biol Chem 282: 21467-21476, 2007.			
【症例報告】			
【総 説】			
欧文			
1. <u>Hayashi K</u> , Altman A: Protein kinase C $\theta$ (PKC $\theta$ ): A key player in T cell life and death. Pharmacol Res 55: 537-544, 2007.			
【そ の 他】			